

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
10027	現代日本の文化と社会	政治や経済、家族・社会関係、信仰など生活のさまざまな側面における戦後日本の変化を概観的に把握することで、現在の日本で生起しているさまざまな文化社会現象を認識し分析する上での基礎的知識を習得し、説明できるようになる。	2		
16202	国際学入門	国際学とはどのような理念、内容を持つかを学ぶ	1		
16402	国際学入門E		1		
16209	国際協力論1	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2		
16409	国際協力論2		2		
16209	国際協力論1	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2		
16409	国際協力論2		2		
16214	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身につける	1		
16414	日本文化E		1		
16213	日本史概説1	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める	2		
16413	日本史概説2		2		
16014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身につける	2		
16023	日本の古典文学	・日本古典文学の代表的な古典がどのように古典として認知されてきたかを知る。 ・古典学の成果を踏まえて、新たな古典的作品がどのように創造されたかを知る。	2		
16067	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2		
16238	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		
16239	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2		
52124	社会言語学1	社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて言語現象や言語運用を捉えようとする学問である社会言語学についての様々な事例を学び、日本語教育的観点から、現代日本語と社会の関係とその応用の可能性についての知識を得ることができる	3~4		
52624	社会言語学2		3~4		
16049	国際コミュニケーション論	(マス・)メディアやコミュニケーションの考え方を踏まえ、現代社会、国際社会における情報の在り方、利用のされ方、その可能性と危険性を学ぶ 表面的な現象のみならず、その背後にあるアクターたちの意図をくみ取りながら、現代の情報社会の可能性と脆弱性に関する意識を深め、自分で考える習慣をつける	2		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
52241	現代中国論A1	現代中国の政治を中心に、これと関連する社会・経済・歴史・文化についての知識を増やし、中国に対する理解を深める	2~4		
52741	現代中国論A2		2~4		
52242	現代中国論B1	中国現代政治史についての知識を増やし、中国に対する理解を深める	2~4		
52742	現代中国論B2		2~4		
52210	東アジア国際交流史1	・自分たちが生きている地域と東アジア諸地域との交流史に関する理解を深め、国際化に対応した地域へのアイデンティティを形成する ・自分が今まで持っていた東アジアについての歴史意識を再検討する作業を通じて、問題意識や批判的・論理的な思考力を養う ・グローバル化の時代に必要な歴史意識や価値観を身につける	2~4		
52710	東アジア国際交流史2		2~4		
51308	米英言語思想論	英語論文の精読を通して、現象について深く観察し、理解を深めることで、言語に対する深い洞察力・分析力を身につけると共に、自身の英語力向上に生かせるようにする	2~4		
52404	現代ヨーロッパ社会論1	ヨーロッパの現代社会が抱えているさまざまな問題についての分析・議論を通じて現代ヨーロッパについての理解を深める それと同時に日本の現代社会への視座をも獲得する	2~4		
52904	現代ヨーロッパ社会論2		2~4		
16210 (10019 ※2)	異文化理解1	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する	1		
16410 (10020 ※2)	異文化理解2		1		
52113	第二言語習得論1	・第二言語習得の基礎理論を概観し学ぶ ・日本語教育を第二言語習得の観点から見ることができる ・日本語教育の実例に触れ、問題点と解決法を考える	3~4		
52613	第二言語習得論2		3~4		
51123 (90030 ※3)	発達と学習の心理	発達の様相と学習成立のメカニズムを学び人間理解を深める	2~4		
16221	日本語教育学基礎1	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する	2		
16421	日本語教育学基礎2		2		
52107	日本語教科書研究1	・日本語教育における「学習」について理解する ・日本語教科書や教材に関する基礎知識を習得する ・様々な視点から、日本語教科書を分析することができる ・日本語教科書の実際の使い方を考えることができ	2~4		
52607	日本語教科書研究2		2~4		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
52108	日本語教授法A1	・日本語(文法、語彙・表現)や日本文化に対する理解を深める ・「日本語を教える」とはどのようなことなのか、その目的を理解し、そのために必要な教授法やコースデザイン、日本語の文法についての知識を深める	2~4		
52608	日本語教授法A2	・実際に初級レベルの日本語学習者をどのように指導するのか、指導の方法を学び、教案を作成する ・模擬授業の形式で、実際に日本語を教える模擬体験をし、コミュニケーションを重視した日本語を指導するにはどのような知識や心構えが必要とされるのかを自ら学ぶ	2~4		
52109	日本語教授法B1	・日本語教授法Aで学んだ教授法の基礎的な知識と実践を確認する ・基礎的な教授法をもとに、技能別(聞く、話す、読む、書く)の教授法や応用的な教授法を理解する	3~4		
52609	日本語教授法B2	・多様な日本語教育のニーズに対応するための、目的別の教授法を理解する ・交流型の日本語活動の理念と実施方法を理解する ・さまざまなタイプの模擬授業を計画し、実践する	3~4		
52110	日本語教育とコンピュータ1	・日本語教育における学習ツールとしてのコンピュータについて理解した上で、使いこなす ・日本語教育における学習管理ツールとしてのコンピュータについて理解した上で、使いこなす	3~4		
52610	日本語教育とコンピュータ2	・日本語教育における教授ツールとしてのコンピュータについて理解した上で、使いこなす ・コンピュータのさまざまな機能を利用しながら、教材を作成する	3~4		
51138	日本語教育評価法	・日本語教育の場面で用いられる評価法の目的・種類・形式・判断基準がどのようなものか説明できる。 ・利用目的に応じた評価法を選択できる。 ・おのおのの評価法を適切に用いることができる	3~4		
52117	日本語教育史1	外国人への日本語教育はここ30年ほどの期間に年々盛んになったと理解している学生が多いが、実は19世紀末から第二次世界大戦終結の1945年までの50年近い期間に、日本のアジア占領政策の中で行われた台湾、朝鮮半島、南洋諸島、中国満州での日本語教育が早い時期のものである。授業では、そのような戦前の海外での日本語教育の歴史を中心に概観し、日本語教育能力検定試験にも対応できるような知識を身に付けさせる。	3~4		
52617	日本語教育史2		3~4		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
16246	日本語学概論A1	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、文法、文字表記を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる	2		
16446	日本語学概論A2		2		
16247	日本語学概論B1	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、音声、語彙を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる	2		
16447	日本語学概論B2		2		
52101	日本語の文字・表記1	日本語の文字・表記に関する基本的な知識を身につけ、常用漢字表・現代仮名遣い・ローマ字のつづり方等、現代日本語表記の基準・目安について歴史的背景も含めて理解を深め、日本語教育に生かすことができる	2~4		
52601	日本語の文字・表記2		2~4		
52130	日本語の語彙・意味1	日本語教師をめざす者として母語に敏感になるための一方策として、日本語の語彙の世界をより深く知り、特に類義語や類義表現の意味の違いについて、用例をもとに客観的に観察し、分析する中で意味分析の方法を身につけることができる	2~4		
52630	日本語の語彙・意味2		2~4		
51103	日本語史A	音韻・文法・敬語等の分野を中心に日本語の歴史的变化についての基本的な知識を身につけることで、現代日本語の特質や仮名遣いの問題についてより深く理解することができる	2~4		
52104	日本語史B1	音韻および文字に関する個別の問題を考えることによって、日本語の歴史に対する認識を深めるとともに、日本語の置かれている位置、日本語の構造に対する多面的な見方を身につけることができる	2~4		
52604	日本語史B2		2~4		
52105	日本語文法A1	・日本語文法の基本を理解する ・世界の言語から見た日本語の言語特性を理解する ・日本語学としての日本語文法と日本語教育としての日本語文法の違いを学ぶ ・ある語形がどのような文法的ふるまいをし、どのような意味用法を持つのかを、具体例を示しながら日本語学習者に対して説明できるようになる	2~4		
52605	日本語文法A2		2~4		
52106	日本語文法B1	様々なレベルの日本語学習者を教える上で必要な文法的概念についての知識を習得する それらの知識を用いて、学習者の抱える個々の文法的問題を自分で考えて解決することが出来る また、適切な例文を作り、学習者に提示しながら説明が出来る	3~4		
52606	日本語文法B2		3~4		

副専攻名 日本語教育**副専攻のCP(カリキュラム編成方針)**

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、日本語教員養成における日本語教育主専攻(45単位以上)に対する副専攻(26単位以上)資格に相当するよう、2000年3月に文化庁が示した「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(8単位以上)、「言語」(8単位以上)の5分野にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育副専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
52118	音声学1	言語教育における音声の重要性を理解し、日本語の音声について、日本語教育的観点から深く理解することができる	2~4		
52618	音声学2	また、日本語を含む諸外国語の代表的音声の発音と聞き取りができるようになる	2~4		
51121	対照言語学	日本語の言語学的特徴を、他言語との対照の中で再確認し、日本語の特徴を客観的に把握することで日本語教育に生かすことができる	3~4		

※1 開講期は、Webシラバスでご確認ください。

※2 学域GS科目として履修する場合の科目番号

※3 教員免許取得希望者が教職に関する科目として履修する場合の科目番号